

資料3(参考)

平成27年度
第一回森林環境保全基金運営委員会

～平成27年度森林環境税活用事業評価シート～

日時:平成27年5月29日(月)14:00～16:00

場所:興林会館

高知県林業環境政策課

目次

1. 公益林保全整備事業（木材増産推進課） 1
2. みどりの環境整備支援事業（木材増産推進課） 3
3. シカ捕獲推進事業経費（鳥獣対策課） 5
4. 希少野生植物食害対策事業（環境共生課） 7
5. 環境学習推進事業（生涯学習課） 9
6. 高校生森林環境理解事業（高等学校課） 11
7. 高校生後継者育成事業（高等学校課） 13
8. 山の学習支援事業（林業環境政策課） 15
9. 森づくりへの理解と参加を促す広報事業（林業環境政策課） 17
10. こうち山の日推進事業（林業環境政策課） 21
11. 運営委員会等開催費（林業環境政策課） 25
12. 木の香るまちづくり推進事業（木材利用推進課） 27

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	出口 和樹
内線	3146

1

① 事業名	・細目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・細々目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・当該事業名：公益林保全整備事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

③ 主な業務内容	Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の保育間伐による森林整備。 当該事業にかかる補助金交付申請、交付決定、検査、確定及び執行管理等の事務。 関係機関へのPR。
----------	--

④	<p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成24年度</p> <p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担を軽減を図るよう取り組んでいる。 平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐した材を1ha当たり10m³以上搬出することが必須条件となった。 また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。 しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度から7齢級までの保育間伐が復活された。 このため、森林環境税を効率的に活用するため、平成27年度以降も造林事業への誘導を進めていく。 当該事業は、国庫補助事業で採択されない森林所有者のセーフティーネットとして要望も強く、事業規模等については検討を図っていく。</p>
⑤	<p>目的とねらい（成果）</p> <p>（本事業の目的） 水源かん養機能等の公益的機能が低い人工林の保育間伐を推進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。</p> <p>（意図すべき成果） 森林吸収源効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>
⑥	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>●森林所有者 ●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林であり、かつ、集約化が図れず国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の人工林の保育間伐</p>

②	事業費の推移	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (予算額)
	総事業費 (千円)	0	142,426	98,025	35,984	39,200
財源内訳	森林環境税		142,426	98,025	35,984	39,200
	一般財源					
	その他					

⑦

事業内容（手段）

- 交付対象の森林
Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の保育間伐による森林整備
- 交付の条件
保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林において集約化が図れず、国庫補助事業の対象とならない森林
上記の要件を満たしたものについては、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、間伐の推進について、市町村広報誌への掲載依頼や林業関係機関誌等へ掲載するとともに、森林環境税のPRを図るため、さんSUN高知への掲載や関係機関等に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成27年度計画量】 実施面積 490ha

【補助の流れ】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[市町村]
      B -- 補助 --> C[森林組合等事業体、森林所有者]
    
```

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	出口 和樹
内線	3146

1

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数	327	/	/	270
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	490	/	/	449
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1 ha当たりの事業コスト (間伐)	80,000	/	/	80,000
	算定式				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	東 博文
内線	4602

2

① 事業名	・細目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・細々目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・当該事業名：みどりの環境整備支援事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)
総事業費(千円)		19,297	26,357	8,534	30,092	43,075
② 財源内訳	森林環境税	19,297	26,357	8,534	30,092	43,075
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	人工林(Ⅲ～Ⅸ齢級)の除・間伐による森林整備。 造林事業の採択を受けた事業にかかる交付金交付申請、交付決定、検査、確定及び執行管理等の事務。
----------	---

⑦ 事業内容(手段)

- 交付対象の森林 人工林(Ⅲ～Ⅸ齢級)の除・間伐による森林整備
- 交付の条件 造林事業の採択を受けた事業

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景) 事業開始年度 平成19年度

森林吸収源対策に向けて、除・間伐を実施するとともに、森林所有者の負担を軽減することで持続可能な森林づくりに取り組んでいる。しかし、平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定して、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、補助採択要件に施業の集約化と間伐した材を一定量搬出することが付され、従来、採択してきた保育間伐については、平成23年度から補助対象外となる森林が出てきたことなどにより、当事業が活用され難い状況となってきたが、平成25年度から一定の条件付きで保育間伐が補助対象として追加された。さらに、平成26年度から7齢級まで保育間伐が補助対象として復活された。

このため、除・間伐に係る森林所有者の負担軽減を図るため、平成26年度から当事業による保育間伐へ嵩上げ支援を復活させるとともに、森林資源の構成齢級が事業発足当時と比べ上がってきていることから、補助対象齢級の上限を引き上げを行った。

この事業は、平成19年度から事業を開始し、PR活動も実施してきたことから、森林所有者からの要望も強い。

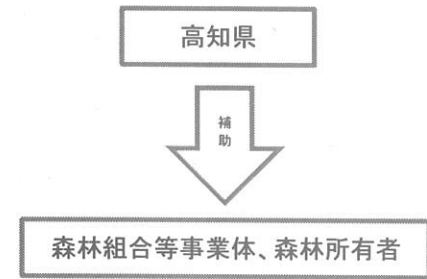
上記の要件を満たしたものについては、各事業と併用して補助し、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、森林環境税のPRを図るために、申請者に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成27年度計画量】 実施面積 1,565ha

⑤ (本事業の目的)
CO2吸収効果の高い人工林の間伐及び自助努力によって適切な森林整備が期待できない森林の間伐を促進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。

(意図すべき成果)
森林吸収源効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。

【補助の流れ】



⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)

- 森林所有者
- 造林事業、人工林(Ⅲ～Ⅸ齢級)の除・間伐

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

①(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	東 博文
内線	4602

2

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数	869	/	/	573
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	1,565	/	/	1,015
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1ha当たり事業コスト	(除伐) 54,000円	/	/	(除伐) 54,000円
	算定式 事業費÷事業実施面積 円				
	1ha当たり事業コスト	(保育間伐A) 35,000円 (保育間伐B) 30,000円 (保育間伐C) 23,000円			(保育間伐A) 35,000円 (保育間伐B) 23,000円 (保育間伐C) 23,000円
	算定式 事業費÷事業実施面積 円				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
<input type="radio"/> D. 妥当ではない		
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎 信一
内線	2269

3

①	事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：シカ捕獲推進事業
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	シカ被害対策

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (予算額)
②	総事業費 (千円)			24,980	20,560	20,044
	財源内訳	森林環境税		24,980	20,560	20,044
		一般財源				
	その他					

③	主な業務内容	県内の山林等に広範囲に生息するシカの個体数を調整するため新規狩猟者及び被害集落にくくりわなを配付し、捕獲を推進する。 配付の際には捕獲技術講習会を実施し、捕獲技術の向上を図る。
---	--------	---

⑦	事業内容 (手段)	市町村を通じて、シカの被害を受けている集落にくくりわなを配付する。 また、新規狩猟者にくくりわなを配付して即戦力化と担い手の確保を図る。
		配付の際には捕獲技術講習会を実施して捕獲技術の向上を図る。 ・平成27年度配付予定数：3,800個。 (内訳) ・被害集落：1,800個配付 (344集落予定：要望量により調整) ・新規狩猟者：2,000個配付 (2個を1,000人に配付予定) (H26～H27新規狩猟者対象予定) 【新規】・捕獲技術講習会：25回予定

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成25年度
	シカの個体数増や生息域が拡大し、特に県の東部と西部で食害による農林業被害や自然植生被害が深刻化している。このため、シカの個体数を調整することが必要である。		
⑤	目的とねらい (成果)	(本事業の目的) シカの個体数の増加や生息域の拡大によって、シカ被害を受けている集落での捕獲に取り組む。 また、新規狩猟者にくくりわなを配付することでシカの捕獲数の増加と新規狩猟者の確保を図る。	
	(意図すべき効果)	シカの個体数を抑制することで、農林業被害や自然植生被害を軽減させる。	
⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)		

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

① 当初 ② 中間・実績

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎信一
内線	2269

3

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	くくりわな配付数(個)	3,800	/	/	4,000
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	平成27年度農林業被害軽減(千円)	26,984	/	/	平成27年度に集計
	算定式 $\frac{25\text{年度農林業被害額} - \text{平成27年度農林業目標被害額}}{134,916 - 107,932} = 26,984$				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	被害額軽減率	80%	/	/	平成27年度に集計
	算定式 $\frac{107,932}{134,916} = 80\%$				

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初) 中間・実績

担当課・係名	環境共生課(自然公園)
担当者	久保
内線	4842

4

① 事業名	・細目事業名： 希少動植物保護対策事業 ・細々目事業名： 希少野生動植物保護対策事業 ・当該事業名： 希少野生植物食害対策事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

③ 主な業務内容	①希少野生植物の食害状況調査、防護柵設置候補地選定、防護柵設置計画作成 ②防護柵設置、防護柵の補修 ③防護柵設置後のモニタリング調査
----------	--

現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景) 事業開始年度 平成20年度

平成20年度より特にニホンジカによる希少野生植物の食害が深刻化し、このまま食害が進むと近い将来希少野生植物が絶滅する可能性の高い山域の被害実態調査を実施し、その状況に応じて緊急性の高い場所に防護柵(保護ネット)の設置を行うなど、希少野生植物の保護を図っている。

また、設置した防護柵の効果を把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。

H20～H26防護柵の設置状況 (合計36箇所)

⑤ 目的とねらい (成果)	(事業の目的) 県内の山岳地帯において、ニホンジカによる食害が非常に拡大しており、希少野生植物にも大きな被害が発生しているとの情報が、民間の自然保護団体などから寄せられている。 県では、ニホンジカによる希少野生植物への影響を十分に把握していないため、被害の実態を調査するとともに緊急にその対策を講じる必要がある。
	(意図すべき成果) 全県的な被害状況を把握し、現地調査等を行い急激な食害進行に早急に対応し、希少野生植物の保護に努める。
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県内に分布する保全上重要な野生植物

② 事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)	
総事業費(千円)	6,253	8,981	11,311	9,079	9,145	
財源内訳	森林環境税	6,253	8,981	11,311	9,079	9,145
	一般財源					
	その他					

事業内容 (手段)

(1) 調査・検討・対策計画
野生植物に関する専門的知識を持つ者による希少野生植物の食害状況等の調査の実施及びその結果、専門的知見により防護柵(保護ネット)設置計画を立てる。
防護柵設置時においては現地で作業指示を行う。
【H27年度予定：調査県内10箇所、柵設置指導ノ2箇所】

(2) 対策の実施(防護柵設置)
防護柵(保護ネット)設置計画に基づき、野生植物の専門知識を持つ者の指示のもと、防護柵設置作業を行なう。
防護柵(保護ネット)の設置にあたっては、急斜面等への設置等素人による作業が困難な事態も予測されるため、管轄の森林組合に資材の調達・設置作業を委託する。
【H27年度予定：2箇所 香美市三嶺1箇所200m、香美市高板山110m】

(3) モニタリングの実施
昨年度までに設置した保護ネットの効果を把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングや現地ヒアリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。
【H27年度予定：全箇所の点検、モニタリング調査20ノ36箇所】

⑦

(1年目)
調査・検討・対策計画検討 高知県立牧野植物園に委託
シカの捕獲データや希少野生植物の分布など現地調査を行い、次年度以降の防護柵設置計画を作成

(2年目)
対策の実施(防護柵設置) 管轄の森林組合に委託
設置計画に基づき、防護柵を設置

(3年目以降)
モニタリングの実施 県内コンサルタント会社(植生調査実績あり)に委託
植生の回復状況や、現地のモニタリング調査を実施し、防護柵の効果を把握。全箇所の防護柵の破損状況を点検し軽微な修繕も実施

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	環境共生課(自然公園)
担当者	久保
内線	4842

4

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	食害拡大地域の現地調査箇所数	10	/	/	9
	算定式 調査箇所数				
	防護柵設置(柵延長距離)	310			380
	算定式 柵延長距離(m)				
II 成果指標 (アウトカム)	植生回復状況(各調査地点1㎡当りの 植被率(%)の推移)	70%	/	/	87%
	算定式 $\frac{\text{植被率(%)が柵内}\geq\text{柵外の方形区数}}{\text{柵内方形区調査(H26以前設置)数}}(\%)$				
	防護柵新設により保護される希少植物優先度点数	2箇所 21			3箇所 48
	算定式 $\frac{\text{高知県レッドリスト・環境省レッドリスト・高知県固有評価のランク別記点による点数}}{\text{高知県レッドリスト・環境省レッドリスト・高知県固有評価のランク別記点による点数}}$				
III 効率指標 (事業コスト)	防護柵1m設置に係る経費	13,300	/	/	10,161
	算定式 $\frac{\text{事業費(調査+設置)}}{\text{新規柵延長}}$				
	設置済防護柵1箇所当りモニタリング経費	139,500			160,232
	算定式 $\frac{\text{事業費(モニタリング調査)}}{\text{柵の点検箇所(H26以前設置)数}}$				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	生涯学習課
担当者	川上 確也
内線	4629

5

①	事業名	・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：環境学習推進事業 ・当該事業名：環境学習推進事業 ：体験活動推進事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	・指導者養成研修委託にかかる事務 ・体験活動推進事業に係る事務
---	--------	------------------------------------

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成23年度
	平成22年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、社会教育施設が連携した自然体験活動や環境学習を推進する。そのためには、森林率日本一の本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育が行えるよう、指導者研修をはじめとする人材の育成が重要である。 また、子どもだけでなく大人も含めみんなが森を大切に、自然と共生する社会の実現に向けて、県民の意識の向上を図ることが必要である。		

⑤	目的とねらい（成果）	◇環境学習推進事業 自然体験活動や環境学習を推進するために、体験活動等に関する情報の提供、指導者の養成に取り組む。 ○指導者養成研修等委託業務（自然体験インストラクター） 幼少期から青少年等の幅広い年齢層を対象とした自然体験活動プログラムの企画・実施ができる指導者の養成及び指導力向上のための研修会を実施する。 また、研修会では、学校教育に関する理解を深め、学校教育と連携した取組を提案できる指導者の養成を目指すとともに、研修会を通じて参加者どうしが交流し指導者として自らのスキルや知識を深化させる機会とする。 ○情報共有・情報提供 高知体験学習ガイドポータルサイトにおいて、自然体験・環境学習に関する情報（イベント、各種団体、場所等）を県民に広く提供するとともに、青少年の体験活動の意義や効果について啓発を図る。 あわせて、自然体験活動指導者に対し、安全管理や活動プログラム等に関する情報を提供することにより支援を行う。
	◇体験活動推進事業 子どもの体験活動の機会を増やすため、身近な場所で、豊かな活動体験を提供できる指導者を地域の青少年育成団体等に派遣する。 ・親子を対象とすることで、保護者に対して体験活動の在り方を啓発する。 ・既に体験活動を行っている団体においても、新たな分野の活動が提供されることで、活動の幅が広がるとともに、団体と指導者の連携が促進される。 ・指導者養成研修等の研修を修了した指導者の活動の場が広がり、指導者自身の指導スキルが向上が期待できる。	

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	○ 指導者養成研修等委託業務（自然体験インストラクター）： 自然体験活動の指導に関する研修の受講経験者、自然体験活動や環境学習の指導及び指導補助の経験者 ○ 体験活動推進事業：子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、県内小中PTA（親子行事等）
---	-----------------	---

②	事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)	
	総事業費（千円）	1,953	1,522	1,788	616	1,088	
	財源内訳	森林環境税	1,953	1,522	1,788	616	1,088
		一般財源					
その他							

⑦	事業内容（手段）	○ 指導者養成研修等委託業務（自然体験インストラクター） 単独随意契約 自然体験活動や環境学習の企画・運営、各団体間の連絡調整を行う指導者の養成及び指導力向上を目指した研修会の実施。 研修事業の企画と実施業務を委託する。 安全管理や自然体験活動の企画・運営に関する知識技能等22.5時間の研修を実施する。 ○ 自然体験活動指導者研修の修了者が、スキルアップを図るために森林保全ボランティア団体の実施する間伐体験を活用する。なお、林業振興・環境部林業環境政策課と連携して情報提供を受けるものとする。 また、自然体験インストラクターの資格取得に必要な演習について、青少年教育施設の主催事業を紹介する。
	【新規】○ 体験活動推進事業 自然体験活動指導者研修の修了者をはじめ、自然体験プログラムを提供できる経験豊かな指導者を地域の青少年育成団体等へ派遣する。 指導者2名を10箇所に派遣。	

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

①(当初) ②(中間) ③(実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	川上 確也
内線	4629

5

指標の種類	指標名/算定式		H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
① 活動指標 (アウトプット)	自然体験活動指導者研修実施数		1	/	/	1
	算定式	1回				
	体験活動派遣数		10	/	/	-
	算定式	10箇所				
② 成果指標 (アウトカム)	自然体験活動インストラクター研修参加者数		24	/	/	21
	算定式	24人				
	子どもの参加者数		100	/	/	-
	算定式	10人×10箇所				
③ 効率指標 (事業コスト)	自然体験活動インストラクター研修参加者1人あたりのコスト		16,458	/	/	18,510
	算定式	自然体験活動インストラクター研修事業費÷参加者数				
	子どもの参加者1人あたりのコスト		2,000	/	/	-
	算定式	講師謝金等報償費÷子どもの参加者数				

評価の項目	評価の結果	説明
④ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑤ Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
⑥ Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川
内線	4851

6

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生森林環境理解事業 ・当該事業名：高校生森林環境理解事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成20年度
	体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることが出来るようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含めより効果的な環境教育を推進していく必要がある。		
⑤	目的とねらい（成果）	四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、四万十川源流域で独特の森林植生の学習や、森林の管理が下層植生にどのような影響を与えるかの調査、森林総合研究所、牧野植物園でのフィールドワークをとおして森・川・海と結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶ。 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品を製作し地域の保育園等に配布し将来の木材需要の向上を図る。	
	⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県内河川及び山（生徒）

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)
② 総事業費（千円）		985	1,050	884	863	741
財源内訳	森林環境税	985	1,050	884	863	741
	一般財源					
	その他					

⑦	事業内容（手段）	学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品の製作を行い地域への配布 小学生・保護者対象の木工教室の開催 高校生が講師となり中学校への出前授業 実施予定校 ・四万十高等学校 ・高知北高等学校 ・幡多農業高等学校
---	----------	--

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川
内線	4851

6

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数	30	/	/	81
	算定式				
			/	/	
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	取り組み回数	30	/	/	81
	算定式				
			/	/	
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	取り組み1回あたりに要する経費	24,700	/	/	10,645
	算定式				
			/	/	

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川
内線	4851

7

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生後継者育成事業 ・当該事業名：高校生後継者育成事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (予算額)	
②	総事業費 (千円)	118	191	401	219	547	
	財源内訳	森林環境税	118	191	182	219	547
		一般財源					
	その他						

③	主な業務内容	林業関係学科に学ぶ生徒を対象に、林業に関する資格取得を推進し、将来の林業を担う人材の育成を図る。
---	--------	--

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
	林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことが出来たが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。		

⑤	目的とねらい (成果)	将来の林業従事予定者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。
	対象 (誰、何を対象とするのか)	資格 (生徒)

⑦	事業内容 (手段)	車両系建設機械運転技能講習の受講 (35人予定) 可搬式林業機械研修の受講 (46人予定)
	実施予定校	<ul style="list-style-type: none"> ・高知農業高等学校 (車両15人、可搬10人) ・幡多農業高等学校 (車両10人、可搬20人) ・窪川高等学校 (新規追加) (車両5人、可搬7人) ・橋原高等学校 (新規追加) (車両5人、可搬9人)

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川
内線	4851

7

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数	8	/	/	3
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	参加人数	81	/	/	48
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加者1人あたりに要する経費	6,754	/	/	4,563
	算定式 事業費÷参加人数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

8

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：山の学習支援事業費補助金
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	総合的な学習の時間において、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等へ、学校独自の取り組みを進めるために補助する。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成16年度
	平成7年に策定された木の文化県構想は「木と人との共生」を基本理念として、人と木のより深い関わりと多様なあり方を追求し、木に対する色々な知識を蓄積しながら、木の循環に配慮した行動につなげていくことを狙いとしている。この中の3つの視点の一つである「木を育てる」視点から、森林率全国一を誇る本県において、昔から培われてきた「木の文化」を身につけ活動できる人材を継続的に養成する必要がある。また、木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えていくことによって、木の文化県構想の定着を図っていく必要がある。		
⑤	目的とねらい（成果）	森林県である本県の子ども達に「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子ども達が森林への理解や関心を深め広げ、将来に渡って大切な山や森を守っていく心を育むことを目的とする。	
	⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	県民（小中学生等）	

②	事業費の推移	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (予算額)	
	総事業費 (千円)	9,260	9,064	9,902	11,135	13,000	
	財源内訳	森林環境税	9,260	9,064	9,902	11,135	13,000
		一般財源					
その他							

⑦

事業内容（手段）

総合的な学習の時間において年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等へ、学校独自の取り組みを進めるために補助する。

【補助の仕組み】

```

graph TD
    A[高知県] -- 定額補助 --> B[市町村、市町村教育委員会]
    B -- 補助or 令達 --> C[小中学校]
    
```

○参考（補助金額の上限）

対象児童又は生徒の数	補助金額の上限
50人未満	20万円以内
50人以上～100人未満	40万円以内
100人以上～200人未満	60万円以内
200人以上～300人未満	80万円以内
300人以上	100万円以内

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

8

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	学校数	60	/	/	59
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	5,000	/	/	4,974
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費	2,600	/	/	2,239
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

9_1

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境税パンフレット等作成委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な業務内容	森林環境税に関する広報素材（パンフレット等）の作成
---	--------	---------------------------

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成15年度
	平成23年度に行った県民世論調査において、森林環境税の課税期間延長に対する賛成意見が76.5%であったが、前回県民アンケートに比べると7ポイント低下しており、活用内容等も含めて森林環境税の認知度が低下しているものと推測される。 このため、森林環境税の制度や使いみちを県民に一層理解してもらい、同税の趣旨を浸透させていくためには、種々の広報媒体を活用して粘り強くPRしていく必要がある。		

⑤	目的とねらい（成果）	幅広い県民を対象に、森林環境税の目的や使いみちなどや森林の大切さなどをPRすることで、県民の同税への理解を促し、県民の「県民参加の森づくり」への自発的な参加のきっかけとなるツールとして活用することを目的とする。
---	------------	---

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民
---	-----------------	----


②	事業費の推移	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (予算額)
	総事業費 (千円)	281	254	330	401	313
	財源内訳	森林環境税	281	254	330	401
		一般財源				
		その他				

事業内容（手段）

広報素材のデザイン及び印刷を委託形式により実施
森林環境税の制度や使いみちを県民に一層理解してもらうため、掲載内容やデザイン等の見直しを行う。

【事業の流れ】

- 1 掲載項目の決定
- 2 原案のデザイン作成
- 3 発注（委託業者の決定）
- 4 デザイン修正
- 5 成果品受取




林業作業士

山で育った、森づくりの専門家。山で育った、森づくりの専門家。山で育った、森づくりの専門家。

体力面でも精神面でも強くなれる。

山で育った、森づくりの専門家。山で育った、森づくりの専門家。山で育った、森づくりの専門家。



森林環境税はこんなことを使われています。

リーフレット(H26)

チラシ裏面(H26)

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

9_1

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
I 活動指標 (アウトプット)	広報素材の発行回数	1	/	/	1
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	ターゲットを限定した広報素材の発行部数	3,000	/	/	8,000
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	ターゲットを限定した広報素材の一部当たりの経費(円)	67.0	/	/	37.4
	算定式 事業費÷発行部数				
II 成果指標 (アウトカム)	チラシの発行部数	10,000	/	/	10,000
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	ターゲットを限定した広報素材の一部当たりの経費(円)	11.1	/	/	10.1
	算定式 事業費÷発行部数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

9_2

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境税情報誌作成等実施委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な業務内容	森林環境税やこうち山の日にに関する取り組みなどを掲載した情報誌等の作成を行う。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
	森林環境税を活用して、県民参加の森づくりを推進して来ているが、若い年齢層や子育て年齢層、児童・生徒にとっては、森や山への理解や関心があまり高くない状況にある。		

⑤	目的とねらい（成果）	
	(本事業の目的) 森や山に関する情報提供と森林環境税を活用した事業の取り組みなどを、県民に分かりやすく伝えることにより、森林の大切さなどへの理解と関心を深めてもらうことを目的とする。	

⑤	(意図すべき成果) 全国一の森林県である本県の84%を占める山林の公益的機能の大切さが、県民各層に理解されるとともに、森林環境保全のために役立つ森林環境税の重要性を幅広い県民に認識していただくことを目指す。	
---	---	--

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	
	県民(20代～40代の女性、県内小中学校の全児童・生徒及びその親)	


②	事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)	
	総事業費(千円)	6,665	6,665	6,366	6,534	6,420	
②	財源内訳	森林環境税	6,665	6,665	6,366	6,534	6,420
		一般財源					
		その他					

事業内容（手段）

○プロポーザル方式により業者を選定後、委託契約を締結。県民に伝えるべき森林環境税の取り組みや、森や山に関する身近な情報を的確に提供するため、編集会議を開催し、前年度のアンケート結果も参考にしながら誌面づくりを行う。夏（6月）秋（10月）各10万部 計20万部を発行し、県関係機関はもとより、県内の量販店、喫茶店、レストラン、コンビニ、県内外の道の駅、県外事務所など約2,400箇所に配布して積極的な発信を行うとともに、全小中学校の全家庭に配布する。あわせて、小中学校の授業等での本誌の更なる活用を働きかける。また、県HPで誌面と同内容を掲載し読者数の増加をはかる。

【平成27年度予定】

- 発行部数
年2回発行（N017 6月、N018 10月） 各10万部
- 配布先
県内の量販店、コンビニ、四国の道の駅等約2,400箇所及び県内全小中学校の全家庭

⑦		年度	テーマ
		平成25年度	森の機能について
		平成26年度	川上のことについて
		平成27年度	川中のことについて 製材(合板・CLT等)(6月) 木材の種類と利用法等(10月)
		平成28年度	川下のことについて 木製品、木造建築物等(6月) 木質バイオマス利用(10月)
平成29年度	総括(平成27年度以降に決定)		

mamori NO16

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

9_2

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	広報誌総発行部数	200,000	/	/	210,000
	算定式 100,000部×2回				
	広報誌発行回数	2			2
	算定式 6月、10月				
⑧ II 成果指標 (アウトカム)	広報誌読者数	100,000	/	/	105,000
	算定式 県内小中学校の全家庭及び県内観光施設等				
	算定式				
⑧ III 効率指標 (事業コスト)	発行一回当たりの経費	3,210,000	/	/	3,266,715
	算定式 総事業費÷年間総発行回数				
	広報誌一部当たりの経費	32.1			31.1
	算定式 総事業費÷年間総発行部数				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
⑨ III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

10_1

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> 細目事業名：県民参加の森づくり推進費 細々目事業名：こうち山の日推進事業費 当該事業名：こうち山の日県民参加支援事業委託料 ：こうち山の日県民参加公式ホームページ構築委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)
総事業費(千円)		1,500	1,822	1,625	949	1,157
② 財源内訳	森林環境税	1,500	1,822	1,625	949	1,157
	一般財源	[※H25~H26の金額には、作業安全研修を含む]				
	その他					

③ 主な業務内容	<ol style="list-style-type: none"> 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催 取り組みの広報 公式ホームページの構築
----------	--

⑦ 事業内容(手段)

- 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催
 - ネットワーク団体の活動計画を把握し、HPに計画内容を広報
 - 活動実施
- 取り組みの広報
 - 活動成果をHPに公開
 - 【新規】公式ホームページの構築

※作業安全研修(初級・中級)については、森林・山村多面的機能発揮対策交付金で実施するため、H28年度まで休止

```

graph TD
    A[県] -- 委託 --> B[こうち山の日  
ボランティアネットワーク]
    A -- 委託 --> C[HP制作業者]
    B --> D[ボランティア]
    B --> E[取り組み広報]
    C --> F[HPの構築]
    
```

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
<p>「こうち山の日」の活動をはじめとする「県民参加の森づくり」を推進するため、県内の森林保全ボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」を事業実施団体に定め、会員団体が県内全域で森林保全活動を積極的に展開している。</p> <p>森林保全ボランティア活動に対する広報が十分ではないため、近年参加者が減少している。</p>		
⑤ 目的とねらい(成果)	<p>幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動などの取り組みを通じて、幅広く県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。</p> <p>また、公式ホームページを本年度構築し、広報手段を充実させる。</p>	
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	県民	

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

10_1

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	森林保全に関する活動回数	13	/	/	15
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	200	/	/	323
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費(円)	1,755	/	/	2,816
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	HP構築に係る経費	806,000	/	/	-
算定式					

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

10_2

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

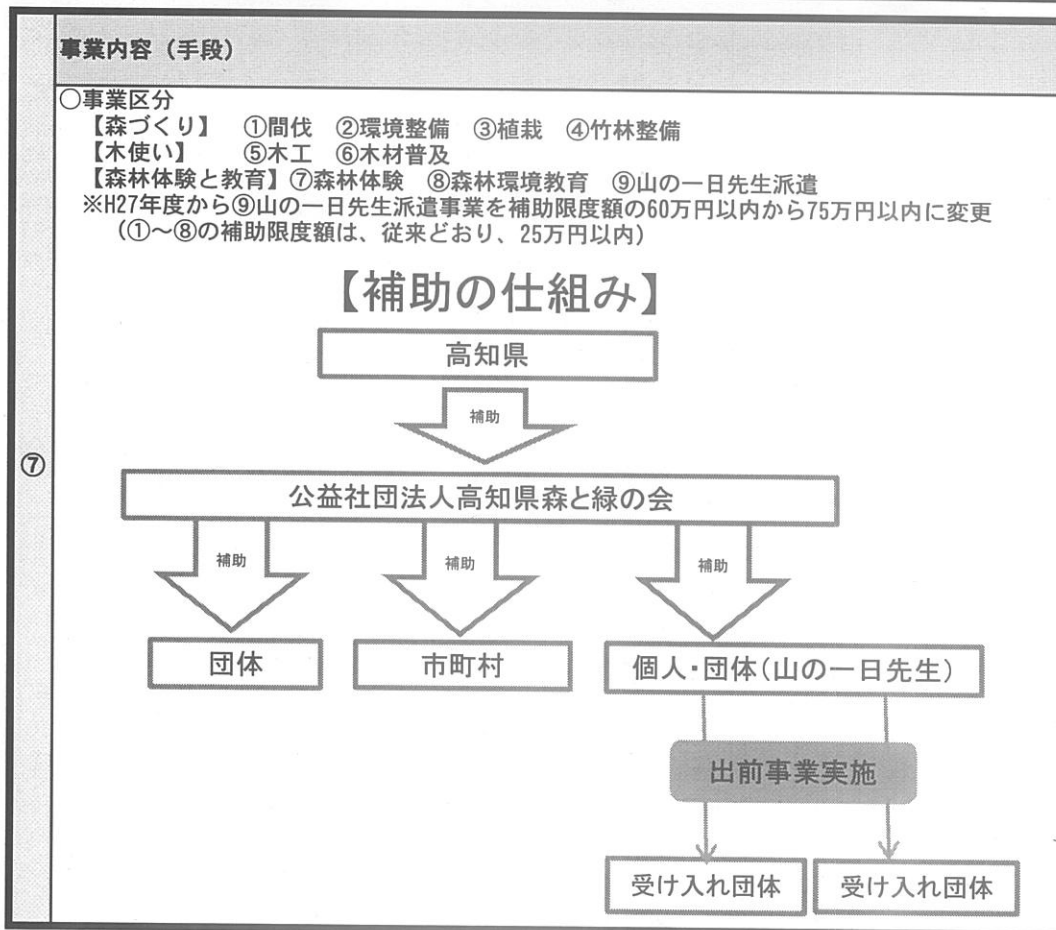
③	主な業務内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業及びひ森の案内人の養成に取り組む団体等に対して補助する。
---	--------	--

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成15年度
	人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や山を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日」が制定された。しかし「こうち山の日」の県民に対する認知度は必ずしも高くないため、今後も、継続的な普及啓発を行う必要がある。		

⑤	目的とねらい（成果）	「こうち山の日」の制定趣旨に基づいた普及啓発に資する取組を総合的に支援することによって、豊かな森林の恵みに感謝し、森林や山を守ることの重要性に対する理解と関心を深め、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、また自ら行動することによって山を守り育て次代へと引き継いでいくことを目的とする。
---	------------	---

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民
---	-----------------	----

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)
総事業費(千円)		12,687	13,699	11,306	8,874	9,363
② 財源内訳	森林環境税	12,687	13,699	11,306	8,874	9,363
	一般財源	[※上記金額には、山の日先生派遣事業を含む]				
	その他					



平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

10_2

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業回数	105	/	/	123
	算定式				
			/	/	
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	7,500	/	/	14,444
	算定式				
			/	/	
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費	1,248	/	/	614
	算定式 事業費 ÷ 県民参加人数				
			/	/	

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

11

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：運営委員会等開催費 ・当該事業名：事務費
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な業務内容	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。
---	--------	-------------------------------------

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度

⑤	目的とねらい（成果）	森林環境保全基金の運営を適正に行う。

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)	
総事業費（千円）		852	692	835	622	1,339	
②	財源内訳	森林環境税	852	692	835	622	1,339
		一般財源					
		その他					

⑦

事業内容（手段）

森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。

【主な取り組み】

- ・基金運営委員会の開催 年4回
- ・先進地視察 年1回

森林環境税による事業の仕組みについて

```

    graph TD
      A[県民] -- "県民税均等割の超過課税（森林環境税）と、同税の趣旨に賛同して寄せられる寄付金" --> B[積立]
      B --> C[森林環境保全基金]
      C -- "基金からの繰入金" --> D[森林環境を保全する事業]
      D -- "県民意見の反映・透明性の確保" --> E[基金運営委員会]
      E -- "県民の意見を検討に反映" --> A
  
```

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

① 当初・中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

11

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	委員会等開催回数	5	/	/	3
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	延べ委員出席者数	50	/	/	27
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	委員会一日一人あたりに要する経費	14,940	/	/	11,174
	算定式 報酬+旅費+使用料				

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	木材利用推進課 木材利用促進
担当者	仙石 健介
内線	4592

12

①	事業名	・細目事業名：県産材需要拡大対策事業 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業 ：その他事務費
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	木材利用

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)
②	総事業費(千円)	43,735	46,608	42,871	32,134	34,676
	森林環境税	43,735	46,608	42,871	32,134	34,676
	財源内訳					
	一般財源					
	その他					

③	主な業務内容	県内の公共的施設や学校施設、屋外景観施設等において県産材を活用した施設の整備や木製品の導入などに対して支援
---	--------	---

⑦	事業内容(手段)	<p>①公共的施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助内容：木質内外装整備等 ・補助先：市町村、社会福祉法人、医療法人等 ・補助率：1/2以内(限度額5,000千円) <p>②学校関連環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助内容：学校等に木製の机、椅子、遊具などを導入 ・補助先：市町村、社会福祉法人、学校法人等 ・補助率：1/2(補助金額25千円以上、限度額5,000千円) <p>③屋外景観施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助内容：木製のバス待合所や休憩所、案内看板等の屋外景観施設整備 ・補助先：市町村、団体等 ・補助率：1/2(補助金額50千円以上、限度額5,000千円)
---	----------	---

現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
④		<p>長引く木材価格の低迷等により、間伐などの手入れがされず荒廃森林が増加。木を使うことにより持続可能な山の暮らしを支えるとともに公益的機能の発揮される森づくりの支援が必要。</p> <p>森林環境税2期目の平成20年度から次世代を担う子ども達への木とふれ合う機会の提供及び不特定多数の方が訪れる公共的施設の内外装整備による木の良さの普及を図り需要拡大につなげるため、小中学校等への木製の机、椅子等の導入、公共的施設の内外装整備に対して支援。</p> <p>平成21年度からは、バス待合所整備等にも対象を拡大し、平成22年度に「木の香るまちづくり支援事業」に一本化。</p> <p>平成26年度は、公共的施設9箇所、学校関連施設42箇所、屋外景観施設6箇所に支援を行った。</p>
⑤	目的とねらい(成果)	<p>(目的)</p> <p>木の良さをPRして需要拡大を図り、持続可能な山の暮らしを支える森づくりの支援につなげる。</p> <p>(成果)</p> <p>木材の地産地消の意識が定着し、県産材があらゆるところで積極的に使用されている。</p>
⑥	対象(誰、何を対象とするのか)	次世代を担う子ども達及び一般県民等

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	木材利用推進課・木材利用推進
担当者	仙石 健介
内線	4592

12

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
I 活動指標 (アウトプット)	補助金投入金額	34,676千円			32,134千円
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	施設利用者数	124,000人			187,156人
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1人当たりPRコスト	280円			172円
	算定式 34,676千円/124,000人				
II 成果指標 (アウトカム)	整備箇所数	33箇所			57箇所
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1箇所当たり整備コスト	1,050,788円			563,747円
	算定式 34,676千円/33箇所				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	